

令和元年 筑後・詩の集い

## 第一部 現代詩を歩く

### ～沖縄・戦後の詩 牧港篤三をめぐって

牧港篤三は沖縄戦後詩を代表する詩人である。従来、沖縄の詩人として著名なのは、金子光晴らの友人でもあった山之内猷であるが、他にも、北原白秋の詩誌「近代風景」(1926~1928) 同人の仲村かれがいる。牧港はこの仲村と戦前那覇で同人誌を出していた。牧港は戦時下新聞社社員として徴用され、戦後米軍占領下に「住民の手記 鉄の暴風」(沖縄タイムズ社) を編集・執筆するなどジャーナリスト及び詩人として活躍した

講師：浦田義和 ペンネーム：うらいちら (福岡県詩人会会員)

1949年天草市生まれ。北九州大学、熊本大学院を経て、法政大学院卒業、以後沖縄国際大学、九州女子大学、佐賀大学教員を経て、現在佐賀大学名誉教授、久留米大学院文化研究科客員教授、詩集、研究書多数(久留米市在住)

## 第二部 詩の朗読～コメント(私にとって詩とは)

(詩の朗読だけでも可) ※飛び入り大歓迎

日時 11月17日(日)

14:00～16:00(13:30受付)

会場 久留米市立中央図書館3階(視聴覚室)

久留米市野中町970-1(石橋文化センター内)

(駐車場無料、近隣に有料の駐車場あり)

入場無料(会員以外の方も大歓迎)

共催 福岡県詩人会; 筑後(犬童 090-5388-8987)

久留米連合文化会 文学、詩部(緒方 090-1923-2006)

※朗読される方の詩の送付先

Eメールアドレス a1333xy@wing.ocn.ne.jp(犬童) 締切10月末

